

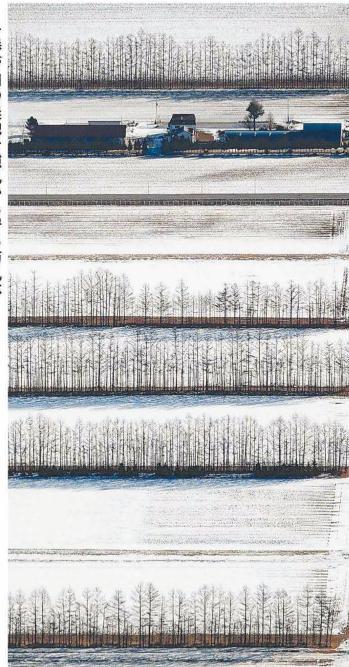


解答と解説は 22 ページにあります。

# 新聞で 読解力アップ!

## ワークシート

## 十勝地方のスマート農業に支障



〔昨年12月24日、十勝管内芽室町、本社へりから（井上浩明撮影）〕

「自動操縦のトラクター」。十勝管内大樹町の畑が防風林の近くを通ると、作農家高松佑樹さん(31)は衛星利用測位システム(GPS)が狂い、進まなくな。高松さんは札幌ドーム約8個分に当たる45haの農地で豆小豆やジャガイモなどを栽培、2017年に無人の農業機械を導入した。しかし

**[帯広]** 農業王国、十勝の農地を守ってきた防風林をどう管理するか、十勝管内の農家が悩んでいる。戦前から植林された防風林は近年、農作業の効率化や衛星電波によるスマート農業の支障になるとて伐採が進み、帯広市内では過去約30年間で半減した。ところが昨年12月、日高山脈から吹き下ろす「日高おろし」の暴風被害が発生。防風林の役割を見直す動きも始めている。

（泉本亮太）

伐採で強風被害増 見直しも

東の農村景観の代名詞だ。このうち行政ではなく、農家が植える「耕地防風林」は1920年代に造成が始まった。近年は減少し、帯広市内で90年に417キロ、つた総延長は2017年で220キロと半減している。

十勝総合振興局が昨年行った農協青年部アンケートによると、農

十勝綜合振興局は21年度、度、独自事業「十勝を守る」防風林の維持促進の取り組みを開始した。実態調査や普及活動を3年計画で実施し、23年度には植林の技術指導を行う計画だ。同振興局森林室の川西博史室長は「防風林の長所も見つめ直してほしい」と語る。

たったが、近所の農家はハ  
ウスが破損。北海道新聞の  
調べでは、十勝での農業被  
害は840件を超えた。高  
松さんは防風林の重要性を  
再認識し、植樹も考えるよ  
うになつたという。  
格子状に並ぶ防風林は道  
勝管内浦幌町で発生。立道  
東支場（同管内新得町）の  
岩崎健太研究主任は「この  
事故をきっかけに、ゼロだ  
った防風林の植林相談が20  
年以降は数件あり、講演の  
依頼も増えた」。

# 防風林管理 悩む農家

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

(1)  とあります。農家にとって、防風林のどのような点が問題なのでしょうか。2つ答えなさい。

- -

(2) 記事では、防風林の重要性を考えるきっかけとなったできごととして、どのようなできごとを紹介していますか。